

令和5年度 イチオシ!の ICT 活用方法

教育委員会

袖ヶ浦市教育委員会

1. 小学校の学習における活用方法（学校名：長浦小学校）

「思考ツールソフトウェアを用いて、
大型提示装置と個人タブレットで情報共有」

メリット

- ・機能を生かし、考えを視覚的に整理できる。
→自分の考えと他者の考えを比較しやすい
- ・進捗状況が一覧で確認できる。
→遅れがちな児童のサポートを行いやすく、
全体指導や、細やかな個別指導につなげやすい。
- ・提出物の保存ができる。
→考え方の変化や、成長を手軽に残すことができる。



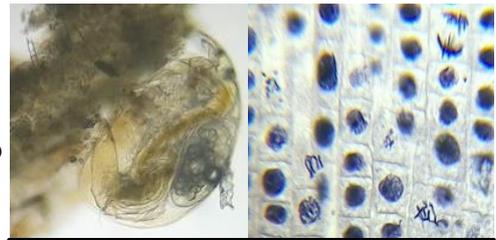
2. 中学校の学習における活用方法（学校名：昭和中学校）

「顕微鏡の観察でタブレットを活用」

顕微鏡で観察する時に、タブレットで撮影し、画面を見ながらスケッチを行う。また、撮影した画像やスケッチは、学習支援ソフト等を用い、生徒間で共有することで、観察の技能や意欲、理解力の向上につながる。

メリット

- ・顕微鏡をのぞきながらのスケッチより、詳細まで丁寧に観察してスケッチすることができる。
- ・顕微鏡の倍率以上に拡大して確認することができるため、観察対象を明確にできる。
- ・動き回ってしまう動物性のプランクトンでも、静止画で確認し、スケッチを行うことができる。
- ・授業時間内にスケッチや観察が不十分でも、帰宅後や次回の授業で確認することができる。
- ・学習支援ソフト上で撮影、共有することにより、何を観察するのか明確にわかっていなかった生徒も、クラスメイトの撮影データを参考にしながら対象物を探せるようになる。
→教員もクラス全員の観察物を一目で確認できるため、個別支援もスムーズに行える。
- ・撮影を行うことで、スケッチの時より遙かに時間を短縮できるため、多くの対象物を観察することができる。
→生徒のもっと見てみたい、もっと知りたいという思いを引き出すことができる。また、知りたいと思ったときには、すぐにインターネットで調べることもできる。



実際に生徒が撮影したミジンコや細胞分裂の様子